

1. 本レポートの為替相場に対する基本的な考え方

近年の為替相場を見ると、世界的な株高局面では為替市場のリスク資産選好が強まって、最も低金利通貨の円が売られる一方、主要国通貨や資源国通貨が対円で買われています。また、この逆に、世界的な株安局面では為替市場のリスク資産回避が強まって、最も低金利通貨の円が買われる一方、主要国通貨や資源国通貨が対円で売られています。したがって、本レポートでは為替相場の動向を世界の株式市場が大きく左右するという認識の上で、世界の株式市場の現状分析と短中期の見通しを掲載するとともに、為替相場の過去 1 週間の現状分析と短中期の簡単な見通しを、主要 8 通貨について、行っています。株式の分析を専門に行ったうえで、為替相場の分析を展開するというレポートは、他の為替レポートにない大きな特徴だと思います。株式市場の動向に為替相場が大きく影響されている現状を考えれば、それは為替レポートのあるべき姿とも考えています。また、トムソン・ロイター・グループの最新情報を元に、週初の月曜日朝に前週 1 週間分の為替動向の分析と短中期の簡単な見通しを、豊富な相場データとともに、お届けしているレポートは他に類を見ないと自負しています。

2. リPPER マーケットウィークリーの構成

本レポートは、

最新のマーケット動向と注目ポイント（世界の株式市場と為替市場、国債市場と海外商品先物市場の分析）

為替相場、短長期国債利回り、海外商品先物相場のテーブルとグラフ、

主要 8 通貨の現状分析と短中期の簡単な見通し、

相場に関する最新の話や注目ポイントを解説した「コラム」、

今週の主なスケジュール、

で構成されています。

3. 最新のマーケット動向と注目ポイント

「最新のマーケット動向と注目ポイント」には本レポートのエッセンスが詰まっています。近年の為替相場では世界の株式市場の影響が大きくなっており、「株式市場」のコメン

トは為替市場の参加者にとっても、必読のコラムです。世界の株式市場は米国の株式市場に大きく左右される傾向が強く、したがって、「株式市場」のコラムでは米国株市場の分析が多くなる傾向にあります。

為替市場の分析・見通しは上記の株式市場の分析・見通しを受けて展開されており、2 つのコラムをワンセットでお読みいただくことが、為替相場の大局観を養う上で効果的です。為替の分析では、米ドル、ユーロ、英ポンド、スイスフラン、カナダドル、豪ドル、ニュージーランドドル、南アランドという 8 通貨を、対円でどういう動きになっているのかを総括的に扱い、為替相場の足下のトレンドを捉えることに努めております。そして、株式

市場の足下のトレンドと変化の方向を踏まえながら、円高・円安の方向性と、米ドルが有利なのか、欧州通貨が有利なのか、あるいは資源国通貨が有利なのかを考察しております。

最後に国債市場と海外商品相場の過去 1 週間の動きを概括的に振り返っています。

4. 為替・国債・海外商品先物相場のテーブルとグラフ

過去 1 週間と年初来の為替相場、国債相場、海外商品先物相場の動きを簡単に確認していただく上で、お役に立つと考えています。為替相場では対円で 25 通貨、対米ドルで 24 通貨のレートを掲載しており、国債相場では日、米、独など 9 カ国の 10 年国債利回りと 3 ヶ月物国債利回り（3 ヶ月物国債のデータが取れない国は銀行手形や預金の金利）を、海外商品先物相場では原油先物（WTI）を中心とするエネルギー、貴金属、非鉄、穀物の 13 商品と CRB 商品先物指数を、各々掲載しています。

5. マーケット分析：為替

米ドル、ユーロ、英ポンド、スイスフラン、カナダドル、豪ドル、ニュージーランドドル、南アランドの 8 通貨について、対円、対米ドル（対 7 通貨）での相場変動の分析と短中期の簡単な見通しを掲載しています。対円だけでなく、対米ドルの動きについても、分析を加えることで、ユーロ以下の 7 通貨の立体的な動きを把握していただくことが可能になり、為替相場の現状認識が深められます。ここでの分析では各通貨の足下のトレンドと変化の兆しを捉えることに、注力しております。また、南アランドについての分析は、当レポートの特色の一つとなっています。

6. コラム

コラムについては、市場で関心の高いトピックスを選んで解説する、あるいは為替相場の動向をより深く分析するというような目的で、掲載しています。

米欧の金融危機と景気後退との関係、米国の景気後退や住宅不況がいつ底入れを迎えそうなのか、主要国の政策金利がどこまで下がるのかといった、レポートの本文では十分に解説しにくい一方、為替への影響が大きい問題について、少し突っ込んだ解説を行い、読者の方が為替相場の大局観を養う上での一助とすることを目指しています。

7. 今週の主なスケジュール

今週の経済指標発表などのスケジュールを掲載しております。マンスリー版では 2 か月分のスケジュールが掲載されておりますので、是非、ご活用ください。